

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和7年1月16日

事業所名 キッズルーム アクア

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0		
	2 職員の配置数は適切である	10	0	利用者2名に対し、職員1名と、本来の配置数より多く配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0	おもちゃや微細道具は、全て毎日消毒をしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	昨年度、子供達との「基礎的な関わり方を知りたい」といった意見があった為、今年度は保護者参加型の活動の機会を設けている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	0	労務士や税理士、姉妹法人の理事長による第三者委員会を毎月行っています。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	毎月の指導員会議で資質向上の研修を全職員を対象に行っています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	0		
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0	場面に応じて、ツールを使用しているが、視覚からの情報に頼りすぎないよう工夫をしている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	0	定期的なモニタリングで、子供に沿った計画が立てられている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0		
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	毎日リーダーの先生が違う為、様々なプログラムが設定されている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	支援開始前に、前日の子供達の様子や、当日の確認を毎日行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	2	利用者の利用時間、職員の勤務終了時間が異なる為、必ずの打ち合わせは出来ていないが、必要な事項は共有を行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	毎日記録をとり、改善したり計画に反映させている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	10	現在は在籍していないが、以前在籍していた児童に対しては、されていた。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	10	現在は在籍していないが、以前在籍していた児童に対しては、されていた。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	移行支援として、移行を控えている児童は、関係機関で支援方法や情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	実際に学校の先生や放デイの方との会議が行われたり、教育委員会と方とのやり取りが行われている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0	協議会や子ども部会に参加し、助言や研修を受けています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8	2	保育園等、併用して利用している児童はあり。保育園等とのやりとりは積極的に行っていて、体制は整っていますが、児童発達について理解がないと、難しいと思います。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10	0	協議会は2ヶ月に1回、子ども部会は年に2、3回と参加出来る会議は積極的に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10	0	保護者参観日で交通安全を行い、子供の関わり方を伝える機会があった。連絡帳のチェック、送迎時の保護者の様子など細やかにチェックし、子どもの対応をアドバイスしている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	必ず職員が保護者に説明をしている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	10	0		
	34	10	0	モニタリング等の決められたタイミング以外でも、保護者が悩んでいる様子があれば、時間を確保し、面談を設けている。	
	35	4	6	定期的に保護者参観日を設けているが、以前保護者間でトラブルがあり、保護者同士の連携を支援していない。	以前、保護者同士のトラブルがあった事で、療育が疎かになってしまった事があり、今後も保護者同士の療育時間外での個人の接触はトラブル防止の為、控えさせていただきます。
	36	10	0		
	37	10	0	毎月、アクア通信を発行しています。写真が多く、楽しみにしている子供や保護者が多い。	
	38	10	0	書類関係は、鍵付きの書庫に入れ、勤務時間外はしっかり施錠している。	
	39	10	0		
	40	10	0	地域住民を招待する行事に当法人も参加しています。また、行事のお知らせは保護者のお迎え時に見やすいよう掲示しています。	
非常時等の対応	41	10	0		
	42	10	0	定期的に行い、訓練の様子をアクア通信の載せている。毎回同じ訓練にならないよう、実際の支援をもとに、想定して訓練を行っている。	
	43	10	0	利用開始前や、服薬に変更があった際に、必ず確認を行っている。	
	44	10	0	事前に保護者に確認を行い、医師の指示のもと、対応を行っている。ホワイトボードにメニューを貼り、食事のネームプレートにもアレルギーの情報が書いてある。	
	45	10	0		
	46	10	0		
	47	10	0		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。